

「秋集め」

「春みつけ」「秋みつけ」・・・いい活動名だと思います。本校では低学年から3年生ぐらいまで、毎年のように行われています。「夏みつけ」「冬みつけ」というのはあまり聞きません。春や秋は生物相の変化が顕著だからでしょう。私は最近「秋集め」という活動をさせています。その言葉の通りの活動です。

私の勤務するお茶の水女子大学は、都内にあって比較的自然が豊かでした。建物も草刈もない、「風致された空地」が結構たくさんあったのです。最近では、大学構内が整備されすぎて、子どもたちが一ヶ所に留まって自然観察をするのが難しくなってきました。そこで、大学構内を歩き回り、秋を集めてくるわけです。こんな時に役立つのが、植物採集用の「胴らん」です。以前はたくさんあったのですが、今はほとんどありません。ポリ袋でも十分でしょう。

集めたものは、教室の自分の机の上に並べて、ゆっくり観察します。眺める子、スケッチする子、見せ合う子・・・「秋博覧会」をするのも楽しいです。ここから先の活動の広がりは無限です。



「秋集めの“収穫”を子どもが自分の机に並べたところ」

カラスウリの実、モミジの葉、ヒメリンゴ、カエデの翼果、イチョウの葉、エノコログサなどがあります。形さまざま、いろどりも鮮やか。「小さい秋みつけた」ですね。これらを、すべて大学の敷地内で30分ほどで集められることは、大変幸せなことです。

(お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋)